

注 意 報

2 病 第 2 0 号
令和 2 年 8 月 2 6 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 3 号

作物名 水稻（中晩生：ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯）
病虫害名 トビイロウンカ

- 1 発生地域 府内全域
2 加害時期 収穫期まで
3 発生量 平年比多い
4 注意報発令の根拠

- (1) 8月中旬の巡回調査で、平年比多い発生を認めた（+）。
(2) 8月中旬にトビイロウンカの緊急調査を行った結果、トビイロウンカ成幼虫（写真1、2）を12ほ場（山城：7、南丹：3、中丹：2）で確認した（表1）（+）。
(3) 7月第4半旬～8月第3半旬までの予察灯調査では、京田辺市で4頭（平年：0.1頭）、亀岡市で1頭（平年：0.0頭）、京丹後市で3頭（平年：0.0頭）の誘殺を確認し、平年比多い（表2）（+）。
(4) 向こう1か月の平均気温は高いと予想されている（+）。



写真1 トビイロウンカ長翅型成虫



写真2 トビイロウンカ短翅型成虫と幼虫

表1 トビイロウンカ調査結果

調査日:8月17日~20日

地域	調査地点		25株見取り・払い落とし調査					坪枯れ	
			寄生 株率	成虫		幼虫	合計		程度*
				長翅	短翅				
山城	向日市物集女	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	長岡京市長法寺	1	16.0	0	3	4	7	少	
	"	2	12.0	0	0	4	4	少	
	井手町多賀	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	8.0	0	2	0	2	少	
	精華町菅井	1	4.0	0	1	0	1	少	
	"	2	24.0	0	6	0	6	少	
	木津川市山城町上拍	1	4.0	0	1	0	1	少	
	"	2	28.0	0	9	0	9	少	
	平均		9.6	0	2	1	3	少	0/12
南丹	亀岡市本梅町	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	南丹市八木町本郷	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	南丹市八木町美里	1	4.0	0	2	0	2	少	
	"	2	4.0	0	1	0	1	少	
	南丹市園部町船岡	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	12.0	1	3	0	4	少	
	南丹市日吉町志和賀	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	平均		2.0	0	1	0	1	少	0/10
中丹	綾部市栗	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	4.0	0	1	0	1	少	
	福知山市大内	1	4.0	0	1	0	1	少	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	舞鶴市志高	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	平均		1.3	0	0	0	0	無	0/6
丹後	宮津市石浦	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	与謝野町三河内	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	伊根町本庄浜	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	伊根町日出	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	伊根町六万部	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	京丹後市丹後町徳光	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	京丹後市丹後町此代	1	0.0	0	0	0	0	無	
	"	2	0.0	0	0	0	0	無	
	平均		0.0	0	0	0	0	無	0/14

*:発生程度別基準

程度	無	少	中	多	甚
25株当たり虫数	0	1~125	126~500	501~1250	1251以上

表2 トビイロウンカの予察灯（60W白熱灯）誘殺結果

	京田辺市	亀岡市	京丹後市
令和2年	4	1	3
平年比	多	多	多
		多	
平年	0.1	0.0	0.0
令和元年	1	0	0
平成30年	0	0	0
平成29年	0	0	0
平成28年	0	0	0
平成27年	0	0	0
平成26年	0	0	0
平成25年	0	0	0
平成24年	0	0	0
平成23年	0	0	0
平成22年	0	0	0



写真3 坪枯れ症状

※（7月第4半旬～8月第3半旬）

5 トビイロウンカの生態

- (1) 成虫には長翅型（羽の長い型）と短翅型（短い型）があり、ほ場に飛来する成虫はすべて長翅型で、その後の世代で増殖能力の高い短翅型が出現します。
- (2) トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、坪枯れ（写真3）を生じさせることがあります。今後収穫期を迎える中晩生品種（ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯）では、発生状況に注意してください。
- (3) トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に、株元を注意して観察してください。
- (4) 低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすいので注意が必要です。

6 防除上の留意事項

- (1) 防除の目安は株当たり成幼虫が5頭以上です。
- (2) 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守してください。収穫期に近いので、収穫前使用日数や使用回数に注意してください。
- (3) 粒剤では種類により施用時期が決まっているので、適期に施用してください。また、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布してください。なお、防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意してください。
- (4) 収穫期が迫り、薬剤防除が出来ないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫してください。
- (5) 必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努めてください。
- (6) 出穂前後に害虫防除を実施したほ場では被害（坪枯れ）が生じる可能性は低いと考えられますが、ほ場によっては密度が高くなることもあるので十分注意してください。